



女子ロードワールドカップ第1戦で見事2位に入った沖

シクリスムエコーNo.127 2006年3月号



2005-2006 UCIトラック・ワールドカップ第4戦 ..... 2



2006年女子ロード海外遠征 ..... 4



ツール・ド・台湾 2006 ..... 7



第11回西日本チャレンジサイクルロードレース大会 ..... 8

ジュニア強化指定選手トラック海外研修合宿 ..... 10



2006年UCIロード登録チーム ..... 13

2006年度JCF MTB レースカレンダー(案) ..... 13

2005 MTB ランキング ..... 14

2005-2006 シクロクロス ランキング ..... 19

2006UCIトラック世界選手権大会 日本代表選手団 ..... 19

世界大学自転車競技選手権大会 日本代表選手団 ..... 19

広報誌「シクリスムエコー」定期購読のご案内 ..... 20

2006年JCF競技規則集 完成! ..... 20

UCI会長 パット・マッカイド氏 表敬訪問 ..... 20

平成17年度第1級公認審判員の承認 ..... 20

平成17年度名誉審判員の承認 ..... 20

連盟の動き ..... 20

## 2005-2006 UCIトラック・ワールドカップ第4戦

ポイントレース2位の盛(左)



### ポイントレース銀 盛もヤツ!

2月27日、班目秀雄監督率いる日本チームの乗った、午後9時成田発シドニー便は、飛行コースにあたるパプア・ニューギニアの火山噴火のため1時間30分遅れで空港を飛び立ち、翌28日シドニーへも1時間30分遅れで到着した。昼食後に自転車を組み立て、指定練習で軽く汗を流して1日を終えた。3月1・2日は、調整トレーニングを行い3日からの本番に備えた。

#### <ケイリン>

渡邊一成は、予選1組でピラヌエバ(スペイン)と同組となり、共にセミファイナルに進んだ。渡邊が先行体制に入ったらすかさずピラヌエバがここを抑え先行して逃げ切り、渡邊は後ろを警戒し2着を確保しながらゴールした。

セミファイナルでは渡邊が先行するも、ラスト1周で捲られ6着になり決勝戦に進めなかった。順位決定戦でも攻めのレース運びをして2着に入り、この結果8位入賞となった。

**渡邊談:** 悔しいもっと力を付けて北京を目指し、スピード持久力を高めます。

#### <スクラッチ>

盛一大が、ワールドカップ初出場。序盤に前々でレースをするもタイミング

悪くアタックに乗れず11位でゴール。

**盛談:** 250mの板張りバンクに慣れればな?

#### <1kmタイムトライアル>

稲垣裕之がモスクワの雪辱をシドニーで返すスタートを切った。250mを18秒台で通過し3秒台の記録を期待したが、後半にペースが落ち1分04秒134で5位入賞に終わった。

**稲垣談:** 思い通りに走れたが3秒台が出なかったなので、スタートが課題なので帰ったらスタートを強化します。

#### <スプリント>

金子貴志と永井清史の二人が挑んだ。200mのタイムトライアルは、10秒6でベスト16に入ったが、1/8決勝で永井は、スタッフに先行されて追い込めず敗退、金子もジリンスキーの不意打ちで先行され抜けずに敗退した。このためB決勝にまわされ金子と永井の対戦となり、永井が逃げ切って9・10位決定戦に進出。ブラッチフォードと対戦した永井は、先行逃げ切りで勝ち9位になった。

**永井談:** 250mバンクの板張りでトレーニングをしたい。上半身をもっと強化しないとだめです。

#### <ポイントレース>

盛の大活躍! 積極的に走り、1回目のポイントから狙って行く作戦を実行し5点を先取。周回を重ね集団を1ラップ20点追加、他のポイント周回でも3点、1点、2点とポイントを取り1位との差が3点となる。ゴール勝負で逆転を期待したが、逆にテプスターにマークされ5点を取りに行けず34点对31点で惜しくも2位に終わった。西谷先輩に続きメダルを獲得した。

**盛談:** 中距離バンク合宿と冬のロードレースでの走り込みの成果が出ました。有難うございました。



ポイントレースの盛(左から2番目)

チームスプリント3位の日本チーム(右)



チームスプリント予選のスタート

<チームスプリント>

ワールドカップ最終レース、1走:金子、2走:渡邊、3走:井上昌己のオーダーで予選に挑み45秒393で3位となり、3・4位決定戦では予選よりも0.052秒速いタイムでポーランドに勝ち、今回二つ目のメダルを獲得した。

優勝チームとのタイム差は、残念にも1秒近くあけられた。

**金子談:** ポイントの盛君の走りを見て、次は俺だ、と刺激を受け積極的になりメダルに届きました。

**井上談:** メダルが取れてよかったです。

今回この大会で感じたことは、やはり板張りバンクでのトレーニングがいかに必要かわかった。強化対策として海外の近い国に有る屋内板張りバンクでト

レーニングを行えるようにしてもらいたいと思う。最終戦も森メカ、柳マッサーのサポートに対し感謝すると共に以上報告といたします。(福田 公生)

[競技結果]

05-06トラックワールドカップ第4戦オーストラリア・シドニー  
(2006/3/3-5 オーストラリア・シドニー・ダングレイブトラック250m)

スプリント

- |   |                  |     |        |
|---|------------------|-----|--------|
| 1 | BAUGE Gregory    | FRA |        |
| 2 | ZIELINSKI Damian | POL |        |
| 3 | TOURNANT Arnaud  | FRA |        |
| 9 | 永井 清史            | JPN |        |
|   | 金子 貴志            | JPN | 1/8F敗退 |

ケリツ

- |   |                  |     |  |
|---|------------------|-----|--|
| 1 | BOS Theo         | NED |  |
| 2 | NG ON LAM Josiah | MAS |  |
| 3 | VAN EIJDEN Jan   | GER |  |
| 8 | 渡邊 一成            | JPN |  |

1kmタイムトライアル

- |   |                 |     |          |
|---|-----------------|-----|----------|
| 1 | FENG Yong       | CHN | 1:03.016 |
| 2 | PERVIS Francois | FRA | 1:03.143 |
| 3 | LEONARD Joel    | AUS | 1:03.839 |
| 5 | 稲垣 裕之           | JPN | 1:04.134 |

チームスプリント

- |   |             |        |
|---|-------------|--------|
| 1 | NETHERLANDS | 44.628 |
| 2 | FRANCE      | 44.730 |
| 3 | 日本 井上・金子・渡邊 | 45.341 |

スクラッチ (15km)

- |    |                      |     |  |
|----|----------------------|-----|--|
| 1  | RATAJCZYK Rafal      | POL |  |
| 2  | JANG Sun Jae         | KOR |  |
| 3  | KHATUNTSEV Alexander | RUS |  |
| 11 | 盛 一大                 | JPN |  |

男子ポイントレース (30km)

- |   |               |          |     |
|---|---------------|----------|-----|
| 1 | TERPSTRA Niki | NED      | 34p |
| 2 | 盛 一大          | JPN      | 31p |
| 3 | NEWTON Chris  | (GBR)RCU | 28p |



末永くお付き合いいただくために。



シマノ製品をご愛用いただきまして

ありがとうございます。

シマノではユーザーの皆様へ、当社製品と

末永くお付き合いいただけるよう、

各種補修用パーツをご用意しております。

- 製品についている取扱い説明書をご使用前に必ずお読みください。
- 機能保証のために分解できないパーツもあります。
- お近くの自転車店でご相談下さい。別途送料がかかる場合があります。
- 在庫状況により、品切れの場合もあります。予めご了承下さい。

**SHIMANO**

www.shimano.com

XBC001-A

## 2006年女子ロード海外遠征(オーストラリア・ニュージーランド)



2006年、女子レースのシーズンインとなるオーストラリア・ニュージーランドで開催されたワールドカップやステージレースに参加。

1月26日、成田空港を出発。オーストラリア(アデレード)で17日間の強化合宿を行った。

例年お世話になっているアデレード在住の荒井文説氏の協力の下、自然に囲まれた緑の多い大自然のなか、暑さになれるトレーニングからスタート。平均4時間走行、徐々に負荷を掛けたトレーニングに移行し、後半は山岳、平坦でのスピードトレーニングなどを消化。

2月13日、レースが開催されるメルボルンに移動。オーストラリアでトラックレースを中心にレース活動をしている吉井功治氏の紹介でLatrobe City(MOE)に滞在、レース開催まで1週間のホテルと車を無料で提供していただいた。地元サイクリングクラブとの交流を深め、レースに向け調整トレーニングを消化。

2月20日、レース会場ジロングに移動し3日間のステージレースに参加。日本からはジャパンナショナルチームと実業団チームの2チームが参加。また、ナショナルチームとして合宿に参加していた沖は日本チャンピオンとしてプロチーム(ノビリ)で参加。

2月21日、初日のレースはタイムトライアルからスタート。午後は30kmクリテリウム、2日目は76kmロードレース、3日目は112.9kmロードレースが開催された。

最終日、区間最大の難所、上り坂20%はあるかと思われる1kmの急勾配で豊岡が単独落車、90km地点で無念のリタイア。日本選手の総合最高位は沖の31位で3日間のステージレースが終了。ナショナルチームで参加した選手は森本以外初参加のため、3日間のステージ

レースはワールドカップレースで走るための貴重なレース経験であった。

### 女子ワールドカップ第1戦 沖 美穂 過去最高の2位!

2月26日、2006年のシーズンスタートを切る女子ワールドカップ第1戦が行われた。119.2km(14.9km×8周)昨年と若干コースが変更になったが、周回数と走行距離は変わらず130名がスタート。

ジロングステージレースで体調の悪かった西も元気にスタート。スローペースでスタートした序盤集団のままレースが展開、ラスト4周回から登り坂でアタックが繰り返され、レース展開が速くなる。

数名の選手が集団から抜け出す展開となり、上り坂で後方に位置していた森本が第3集団に取り残され、続いて西が数人のグループで遅れ、豊岡も同じグループで走る。

ラスト2周回の上り坂で奥田が遅れ、トップ集団には沖・真下が残る。ラスト周回、集団のまま大集団のゴール勝負になった。例年このコースで上位入賞している沖はチームのアシストもあったが、激戦となったゴール勝負で過去最高位の2着でゴール、ワールドカップ2回目の表彰台に立った。またゴール勝負には入れなかったが、初参加ながらトップ集団でゴールした真下が37位



ワールドカップ第2戦、NOBILIチームと沖(左から2人目)



で、大きな自信となった。

2月26日、ワールドカップ終了後、18時30分の飛行機でニュージーランド・ウエリントンに移動。3月1日から3日間のステージレースに参加。オーストラリアのステージレース同様、ワールドカップ参戦に向けたレースとして消化。参加選手は日々着実に実力を向上させた。

3月5日、ニュージーランド・ワールドカップ第2戦に参加。首都ウエリントン国会議事堂前をスタート。強風で有名なウエリントンだが、今日はめったにない弱風の温暖な天気恵まれレース展開が速くなると予想。

12時30分スタート、124km(6.2km×20周)市内のど真ん中コースのためテクニカルコース、弱風のため予想通りスタートから速いレース展開となり、2周回目で豊岡が集団から遅れる。

集団のペースは速いが各チームの思惑があり、逃げのレース展開にはならず大集団のままラスト10周回、Sarah(ニュージーランド)が単独でアタック、独走で集団から抜け出し逃げる。

集団のペースが上がったところで西、真下は第3集団で走っていたが周回遅れでタイムアウト。

メイン集団とサラのタイム差が3分となったところで、沖・森本・奥田の3名が集団から抜け出し、サラを追う展開となった。

ラスト3周回、森本・奥田を含む10数

名の選手がメイン集団から脱落。逃げているサラとのタイム差が詰まらないままメイン集団から抜け出していた2名の選手が、ラスト2km地点でメイン集団に吸収され、メイン集団は2位以下争いのゴール勝負となった。

独走で大差をつけたUlmer Sarahが余裕のゴールで、地元ワールドカップで堂々の勝利を挙げた。

ワールドカップ総合優勝を狙った沖は惜しくも9位に終わり、ワールドカップ第2戦終了総合順位で3位。

ワールドカップ第1戦、2位のインタビューを受ける沖



2戦目はテクニカルコースで速いレース展開のなか、最終周回までがんばり奥田、森本は第2集団でゴール。

約1ヶ月に及ぶ遠征は、ワールドカップ第1戦で表彰台に立った沖、初参加のワールドカップでトップ集団ゴールした真下、レベルの上がった第2戦ワールドカップで第2集団ゴールの森本、奥田の走りなど、ナショナルチームで参加した選手は今回のレース経験で大きな自信を持つことが出来た。

北京オリンピックに向けた強化の一環として大きな収穫であり、今後の強化対策に結び付けなければならない。

(強化コーチ 高橋松吉)



[ 競技結果 ]

ｼﾞｬﾎﾝｸﾞ ﾞｱ-

( 2006/2/21-23 ﾵｽﾄﾗﾘｱｼﾞ ﾞﾎﾝｸﾞ )

第1ｽﾃｰｼﾞ 個人TT ( 8km )

1	Christiane Soeder	AUT	11:07.51
2	Svetlana Bubnenkova	RUS	+0:04.53
3	Mellisa Holt	NZL	+0:05.31
44	沖 美穂	NMC	+1:00.80
70	森本 朱美	JPN	+1:17.70
93	酒井 真清	JBCF	+1:30.33
94	西 加南子	JPN	+1:30.57
98	真下 正美	JPN	+1:33.57
104	山口 亮子	JBCF	+1:37.15
111	奥田 庸子	JPN	+1:41.33
113	片山 梨絵	JBCF	+1:42.04
119	豊岡 英子	JPN	+1:47.82
123	永山 貴生	JBCF	+1:54.95
128	和地 恵美	JBCF	+2:18.78

第2ｽﾃｰｼﾞ ( 30km )

1	Rochelle Gilmore	AUS	56:55
2	Ina Teutenberg	GER	
3	Oenone Wood	AUS	
12	沖 美穂	NMC	
21	森本 朱美	JPN	
45	山口 亮子	JBCF	+2:00
60	真下 正美	JPN	+3:00
66	西 加南子	JPN	
83	奥田 庸子	JPN	+4:00
106	片山 梨絵	JBCF	
122	豊岡 英子	JPN	+5:00
123	酒井 真清	JBCF	
125	和地 恵美	JBCF	+6:00
128	永山 貴生	JBCF	

第3ｽﾃｰｼﾞ ( 80km )

1	Tina Mayolo-Pic	USA	2:03:30
2	Oenone Wood	AUS	
3	Ina Teutenberg	GER	
13	沖 美穂	NMC	
20	豊岡 英子	JPN	
28	真下 正美	JPN	
35	片山 梨絵	JBCF	
57	森本 朱美	JPN	
61	西 加南子	JPN	
62	酒井 真清	JBCF	
64	山口 亮子	JBCF	
71	奥田 庸子	JPN	
	永山 貴生	JBCF	OTL
	和地 恵美	JBCF	OTL

第4ｽﾃｰｼﾞ ( 115km )

1	Ina Teutenberg	GER	2:59:44
2	Mellisa Holt	NZL	
3	Oenone Wood	AUS	
6	沖 美穂	NMC	
25	森本 朱美	JPN	
35	奥田 庸子	JPN	
39	真下 正美	JPN	
60	片山 梨絵	JBCF	
76	山口 亮子	JBCF	
95	酒井 真清	JBCF	+15:18
	西 加南子	JPN	DNS

個人総合成績

1	Oenone Wood	AUS	6:11:03
2	Mellisa Holt	NZL	+0:05

3	Svetlana Bubnenkova	RUS	+0:16
31	沖 美穂	NMC	+1:14
35	森本 朱美	JPN	+1:31
48	山口 亮子	JBCF	+3:50
55	真下 正美	JPN	+4:47
72	奥田 庸子	JPN	+5:54
73	片山 梨絵	JBCF	+5:55
103	酒井 真清	JBCF	+22:01

女子ロード・ワールドカップ 第1戦

( 2006/2/26 ﾵｽﾄﾗﾘｱｼﾞ ﾞﾎﾝｸﾞ )

個人ロードレース

1	TEUTENBERG Ina	GER	3:08:51
2	沖 美穂	NMC	
3	BATES Katherine	AUS	
37	真下 正美	JPN	+0:07
53	奥田 庸子	JPN	+1:04
59	山口 亮子	JPN	+1:04
73	片山 梨絵	JPN	+8:12
79	森本 朱美	JPN	
84	西 加南子	JPN	
86	酒井 真清	JPN	
93	豊岡 英子	JPN	
96	和地 恵美	JPN	
104	永山 貴生	JPN	+8:25

ｼﾞｬｰ ﾵﾌﾞ ﾆｬｰｼﾞ ﾆｰﾗﾝﾄﾞ

( 2006/3/1-3 ﾆｬｰｼﾞ ﾆｰﾗﾝﾄﾞ ﾆｬﾘﾝﾄﾝ )

第1ｽﾃｰｼﾞ

1	Sarah Ulmer	NZL	1:05:05
2	Priska Doppmann	SUI	
3	Trixi Worrack	GER	
9	真下 正美	JPN	+1:45
9	豊岡 英子	JPN	
9	森本 朱美	JPN	
9	奥田 庸子	JPN	
9	沖 美穂	NMC	

第2ｽﾃｰｼﾞ ( 99km )

1	Ina Teutenberg	GER	2:41:35
2	Sarah Ulmer	NZL	
3	Giorgia Bronzini	ITA	
6	真下 正美	JPN	
6	森本 朱美	JPN	
6	奥田 庸子	JPN	

6	沖 美穂	NMC	
73	豊岡 英子	JPN	+9:59

第3ｽﾃｰｼﾞ

1	Ina Teutenberg	GER	1:06:50
2	Joanne Kiesanowski	NZL	
3	Giorgia Bronzini	ITA	
6	真下 正美	JPN	
6	豊岡 英子	JPN	
6	沖 美穂	NMC	
34	奥田 庸子	JPN	+0:07
50	森本 朱美	JPN	+0:13

第4ｽﾃｰｼﾞ 個人TT ( 14km )

1	Sarah Ulmer (NZL)	NZL	16:06
2	Meifang Li (CHN)	CHN	+0:31
3	Judith Arndt (GER)	GER	+0:45
35	森本 朱美	JPN	+2:34
36	真下 正美	JPN	+2:35
53	奥田 庸子	JPN	+3:09
60	豊岡 英子	JPN	+3:24
	沖 美穂	NMC	DNS

個人総合成績

1	Sarah Ulmer	NZL	5:09:32
2	Priska Doppmann	SUI	+1:02
3	Trixi Worrack	GER	+1:16
27	真下 正美	JPN	+4:34
34	森本 朱美	JPN	+4:46
38	奥田 庸子	JPN	+5:15
60	豊岡 英子	JPN	+15:22

ワールドカップ 第2戦・ニュージーランド

( 2006/3/5 ﾆｬｰｼﾞ ﾆｰﾗﾝﾄﾞ ﾆｬﾘﾝﾄﾝ )

個人ロードレース ( 124km )

1	ULMER Sarah	NZL	3:16:45
2	WOOD Oenone	NUR	+4:24
3	TEUTENBERG Ina	TMP	+4:25
9	沖 美穂	NMC	+4:29
28	奥田 庸子	JPN	+8:04
33	森本 朱美	JPN	+8:07
	真下 正美	JPN	DNF
	西 加南子	JPN	DNF
	豊岡 英子	JPN	DNF



## ツール・ド・台湾 2006



## [ 競技結果 ]

ツール・ド・台湾 2006 (UCI2-2)  
(2006/3/5-11 チャンズタイ)

## 第1ステージ (66km)

1	MCLACHLAN,Robert	AUS	DPC	1:27:28
2	O' BEE,Kirk	USA	HNM	1:27:28
3	HUNG-HSU,Hwa Chien	TPE	TPE	1:27:29
12	三浦 恭資	JPN	TCC	1:27:29
13	飯島 誠	JPN	JPN	1:27:29
16	岡崎 和也	JPN	JPN	1:27:29
17	山入端尚吾	JPN	OKN	1:27:29
18	真鍋 和幸	JPN	JPN	1:27:29
19	秋山 英也	JPN	OKN	1:27:29
25	普久原 奨	JPN	OKN	1:27:29
39	田代 恭崇	JPN	JPN	1:27:29
41	別府 匠	JPN	JPN	1:27:29
54	松永 和幸	JPN	OKN	1:27:29
60	五十嵐丈士	JPN	OKN	1:27:29

## 第2ステージ (49.6km)

1	MCLACHLAN,Robert	AUS	DPC	1:02:57
2	O' BEE,Kirk	USA	HNM	1:02:57
3	KOVAC,Maros	SVK	DUK	1:02:57
4	飯島 誠	JPN	JPN	1:02:57



アジアンリーダージャージの飯島

7	三浦 恭資	JPN	TCC	1:02:57
24	岡崎 和也	JPN	JPN	1:02:57
26	五十嵐丈士	JPN	OKN	1:02:57
31	田代 恭崇	JPN	JPN	1:02:57
41	真鍋 和幸	JPN	JPN	1:02:57
42	秋山 英也	JPN	OKN	1:02:57
45	普久原 奨	JPN	OKN	1:02:57
56	別府 匠	JPN	JPN	1:02:57
58	山入端尚吾	JPN	OKN	1:02:57
59	松永 和幸	JPN	OKN	1:02:57

## 第3ステージ (220.2km)

1	MCLACHLAN,Robert	AUS	DPC	5:19:02
2	PELTONEN,Garrett	USA	HNM	5:19:05

3	MCCANN,David	IRL	GNT	5:19:43
8	飯島 誠	JPN	JPN	5:20:13
9	岡崎 和也	JPN	JPN	5:20:13
18	田代 恭崇	JPN	JPN	5:24:22
22	秋山 英也	JPN	OKN	5:26:56
23	三浦 恭資	JPN	TCC	5:26:56
30	別府 匠	JPN	JPN	5:27:53
36	五十嵐丈士	JPN	OKN	5:27:53
48	真鍋 和幸	JPN	JPN	5:27:53
50	松永 和幸	JPN	OKN	5:27:53
57	普久原 奨	JPN	OKN	5:39:04
59	山入端尚吾	JPN	OKN	5:42:47

## 第4ステージ (155km)

第4ステージ優勝の田代(左)と  
アジアンリーダージャージの岡崎

1	田代 恭崇	JPN	JPN	3:55:32
2	FITRIANTO,Hari	INA	PSN	3:56:02
3	SUSANTO,Tonton	INA	WIT	3:56:14
25	三浦 恭資	JPN	TCC	3:56:43
27	岡崎 和也	JPN	JPN	3:56:43
29	飯島 誠	JPN	JPN	3:56:43
33	山入端尚吾	JPN	OKN	3:56:43
34	秋山 英也	JPN	OKN	3:56:43
42	松永 和幸	JPN	OKN	3:56:43
43	五十嵐丈士	JPN	OKN	3:56:43
57	別府 匠	JPN	JPN	3:56:43
60	真鍋 和幸	JPN	JPN	3:56:43
63	普久原 奨	JPN	OKN	3:57:32

## 第5ステージ (138.6km)

1	O' BEE,Kirk	USA	HNM	3:05:25
2	真鍋 和幸	JPN	JPN	3:05:35
3	BRONIS,Roman	SVK	DUK	3:05:38
10	秋山 英也	JPN	OKN	3:05:44
16	三浦 恭資	JPN	TCC	3:11:37
22	岡崎 和也	JPN	JPN	3:11:37
33	飯島 誠	JPN	JPN	3:11:37
39	松永 和幸	JPN	OKN	3:11:37

40	田代 恭崇	JPN	JPN	3:11:37
46	五十嵐丈士	JPN	OKN	3:11:42
57	別府 匠	JPN	JPN	3:16:48
58	普久原 奨	JPN	OKN	3:20:38
	山入端尚吾	JPN	OKN	DNF

## 第6ステージ (110.3km)

1	田代 恭崇	JPN	JPN	2:58:06
2	LAPTHORNE,Darren	AUS	DPC	2:58:28
3	別府 匠	JPN	JPN	2:58:35
20	岡崎 和也	JPN	JPN	2:59:45
30	五十嵐丈士	JPN	OKN	3:01:10
36	三浦 恭資	JPN	TCC	3:02:32
42	松永 和幸	JPN	OKN	3:04:10
47	秋山 英也	JPN	OKN	3:05:29
51	普久原 奨	JPN	OKN	3:08:01
59	飯島 誠	JPN	JPN	3:09:04
62	真鍋 和幸	JPN	JPN	3:11:02

## 第7ステージ (60km)

1	MCLACHLAN,Robert	AUS	DPC	1:22:49
2	O' BEE,Kirk	USA	HNM	1:22:49
3	NOWAK,Hubert	POL	MBK	1:22:49
11	岡崎 和也	JPN	JPN	1:22:49
19	三浦 恭資	JPN	TCC	1:22:49
21	五十嵐丈士	JPN	OKN	1:22:49
32	松永 和幸	JPN	OKN	1:22:49
36	田代 恭崇	JPN	JPN	1:22:49
42	別府 匠	JPN	JPN	1:22:49
46	飯島 誠	JPN	JPN	1:22:49
51	秋山 英也	JPN	OKN	1:22:49
52	普久原 奨	JPN	OKN	1:22:49
	真鍋 和幸	JPN	JPN	DNF

## 個人総合成績 (799.7km)

1	O' BEE,Kirk	USA	HNM	19:13:41
2	GALLAGHER,Stephen	IRL	GNT	19:15:01
3	MCLACHLAN,Robert	AUS	DPC	19:18:11
7	岡崎 和也	JPN	JPN	19:21:20
12	田代 恭崇	JPN	JPN	19:22:29
21	秋山 英也	JPN	OKN	19:28:07
29	飯島 誠	JPN	JPN	19:30:42
30	五十嵐丈士	JPN	OKN	19:31:01
31	三浦 恭資	JPN	TCC	19:31:03
40	別府 匠	JPN	JPN	19:33:30
42	松永 和幸	JPN	OKN	19:33:38
51	普久原 奨	JPN	OKN	19:58:30

## 団体総合成績

1	Health Net Presented By Maxxis	57:53:07
2	Japan National Team	57:58:46
3	Giant Asia Racing Team	58:03:56
11	Team Okinawa	58:32:28

## アジア賞

1	WU,Kan San	HKG	HKG	19:21:00
---	------------	-----	-----	----------

## ポイント賞

1	MCLACHLAN,Robert	AUS	DPC	111p
	山岳賞			
1	田代 恭崇	JPN	JPN	8p



# 第11回西日本チャレンジサイクルロードレース大会



A-Eクラス優勝の西谷(右)と2位の鈴木、その後ろが3位阿部

春の訪れも間近な3月19日、広島の中森森林公園において第11回西日本チャレンジロードレースが開催された。

当日は日本列島を覆った爆弾低気圧のおかげで、時折雪も降る寒さであったが、ロードシーズン開幕にふさわしく、国内の各コンチネンタルチームも参加し、賑やかな大会となった。

A-Eクラスにおいては、トラック・ワールドカップで大活躍した西谷(愛三工業)がゴールスプリントを征し、2006年を幸先良く発進した。



A-Eクラス、逃げ集団(中央が優勝の西谷)





A-Jクラスの先頭集団



A-Fクラス、2位の豊岡(左)と1位の萩原



A-Uクラス、1人逃げる池田

## [ 競技結果 ]

第11回西日本チャレンジサイクルロードレース大会  
(2006/3/19 広島・中央森林公園)

A-E (61.5km)

1	西谷 泰治	愛三工業レーシング	1:35:01
2	鈴木 真理	ミヤバル	1:35:02
3	阿部 良之	シャルシグ	1:35:02
4	大内 薫	シャルシグ	1:35:03
5	盛 一大	愛三工業レーシング	1:35:04
6	広瀬 佳正	シャルシグ	1:35:04
7	別府 匠	愛三工業レーシング	1:35:21
8	田中 光輝	愛三工業レーシング	1:35:22
9	小笠原崇裕	Team Comrade	1:35:23
10	高野 淳	ミヤバル	1:35:23

A-M (36.9km)

1	中田 尚志	NEX-COLNAGO	1:02:33
2	松井 久	カガワS.K.デザイン	1:02:33
3	山崎 範行	チーム岡山	1:02:37
4	松本 哲	グランデパール播磨	1:02:40
5	国末 明	ミノネガス	1:02:41
6	安東 秀倫	チーム岡山	1:02:42
7	相良 吉孝	サソCCD	1:02:43
8	伊藤 高明	Sakatani Racing	1:02:45
9	横山 弘樹	チーム岡山	1:02:45
10	市川 哲也	RTビルクライム	1:02:47

A-U (36.9km)

1	池田 丈志	鹿屋体育大学	58:26
2	山本 幸平		58:40
3	中島 康晴	鹿屋体育大学	58:41
4	佐々木優也	京都産業大学	58:44
5	角 令央奈	鹿屋体育大学	59:00
6	森山 大知	ミヤバル	59:00
7	村上 純平	鹿屋体育大学	59:00
8	天沼 雅貴	マトックス	59:02
9	片山 和正	鹿屋体育大学	59:02
10	石井 陽	立命館大学	59:03

A-J (36.9km)

1	篠原 力也	笠田高等学校	59:38
2	鶴川 大輝	立命館大学	59:42
3	大中 拓磨	北桑田高等学校	59:42
4	伊丹 健治	前橋育英高校	59:43
5	松井 響	北桑田高等学校	59:43
6	初山 翔	麻溝台高等学校	59:43
7	松田 隆寛	倉吉東高校	59:43
8	竹内 俊洋	向上高校	59:43
9	丸本 悠太	広島城北高校	59:45
10	下久保尚貴	立北桑田高等学校	59:46

A-F (24.6km)

1	萩原麻由子	鹿屋体育大学	44:11
2	豊岡 英子	bicinoko.com	44:16
3	酒井 真清	Testach Racing	44:17
4	小野山恵美	equipeU Racing	47:03
5	長井 美香	masahikomifune	47:56
6	宮崎 杏奈	鹿屋体育大学	48:10



A-Mクラスの先頭集団

## ジュニア強化指定選手トラック海外研修合宿



この度、ジュニアの年間を通じた強化策の一つとして強化指定選手トラック短距離陣の海外研修合宿が実施された。研修内容については、現地で自転車競技活動をしている吉井功治氏(日本事務代行)に計画をお願いした。

計画には2週間という期間にできるだけ多くのことを吸収できるようにと、3つのレース参加(メルボルン・クラブレース、オーストラル・ホイールレース、オーストラリア選手権)とトラック練習を含めてもらった。オーストラリア自転車競技連盟やトラック競技場など多くの機関との折衝をしてもらい、そのおかげで充実した研修をすることができた。

### 〔メルボルン・クラブレース〕

2月2日(木)

メルボルン・クラブレースは19:00に開始。このレースは、地域の草レースといった感じでレベルはそれほど高くない、オーストラリアのレースに慣れるには丁度良かった。種目は9kmスクラッチレース、9kmポイントレース、10kmモーターペーサーレース(このレースは、スタートからバイク退避位置まで時速55km/hでバイクが誘導し、バイクの後ろで選手たちは1周毎の先頭交代を行っていく。先頭交代の後、集団のどの位置に入っていくかは自由な

のでそこが駆け引きの重要なポイントとなる)の3つ。それぞれA・B・Cの3つのグレードに分けられている。選手は実力に合わせてどのグレードで走るか選択し、全てのレースを同じグレードで走ることになる。

我々はAグレードに7名(須永、大島、松川、坂本、不破、関根、飯塚)、Bグレードに2名(三木、真船)エントリーした。

昨日初めて250mトラックを走り、今日初めて集団でのレースを行うので、選手は緊張気味だったが我々スタッフも同じ気持ちであった。しかし選手たちの適応能力はなかなかのもので見事にレースを走っていた。ただ1名、三木のみが最初のスクラッチで他の選手と接触、落車をしてしまい、その後のレースもDNSとなってしまった。

### 〔競技結果〕

#### Aグレード

須永:ポイントレース優勝

大島:スクラッチ3位

#### Bグレード

真船:ポイントレース優勝

ペーサーレース優勝

大会プログラムやコミュニケ、リザルトなどの印刷物はほとんど無いので、その他の選手の詳しい結果は分からない。その辺りはいい加減であるが、運営全体については無駄なことは一切省いてあり、極めてスムーズであった。

例えばタイムテーブルなどは始めから作らず、一つのレースが終わればすぐに次のレースを始めるという形で次々と進めていく。合理的であるし、またそれは観客を飽きさせない工夫であると思った。

22:30レース終了。これからのレースも同様の時間帯で行われることが多くなるが、我々にとっては経験のない日程なので少々戸惑う。

### 〔オーストラル・ホイールレース〕

2月4日(土)

会場はボードフォンアリーナという複合スポーツ施設の250mトラック。当然、室内の板張りである。100年以上の歴史を持つオーストラリア最大のトラックレースというだけあって観客が多い。またシェーン・ケリーのようなスター選手も多くのレースに参加しており、単なるレースではなくて娯楽の要素を持った立派なイベントであると感じた。

選手達はこのような熱気あふれる雰囲気の中で、スター選手達と肩を並べてレースを走ることができ、これ以上ない経験をしたと思う。参加選手のレベルはメルボルン・クラブレースより高く、中長距離の種目であっても相当なスピードレースであった。

選手たちはレースの展開やペースと自分の足との兼ね合いを考えながら、国内では使ったことのない大きいギアに挑戦していた。失敗と成功を繰り返しながら自分の適正ギアを知っていく必要がある、その良い機会になったと思う。

レースについては、賞金の懸かったメインイベント「オーストラル・ホイールレース」において大島、須永、関根が決勝へ進んだ。このレースはハンディキャップレースで大島は-110m、須永は-110m、関根は-90mの位置からスタートした。予選も含めて、このレースのスタート位置はエントリータイムに基づいて決まるのだが、あまりにも正直にベストタイムでエントリーしたため後方からのスタートとなり、大変厳しいレースを強いられた。この決勝レース、健闘むなしく上位には入れず、

賞金獲得はならなかった。

その他、モーターペーサーレース、ポイントレース、エリミネーションなどが行われたが、主な結果としてはBグレードエリミネーション須永2位が最高で、皆よく奮闘していたが3位以内には食い込めず、草レースとはいえオーストラリアのレベルの高さを思い知らされる結果となった。

今回のレースで特筆すべきは須永と関根の走りであった。須永はとても競走センスが良く、レースの流れを読みながら勇気を持って自ら動くことができる。関根は小柄ながらスピードが豊かで、今回のケイリンの予選では果敢な先行を見せてくれた。ケリー選手と一緒に走る事となったが、物怖じすることなく打鐘とともに一気に主導権を取り、見事な2周逃げを見せた。結果は3着であったが素晴らしかった。オーストラリア選手権での走りに期待を抱かせてくれた。

レースは19:00に開始、22:30に終了した。終了後、軽く食事をとってホテルへ戻り、それぞれ荷物をまとめる作業をし、就寝。

### 【オーストラリア選手権】

2月6日(月)

オーストラリア選手権第1日目。12時からの監督会議は、和やかな雰囲気、なおかつ無駄なく短時間で終わった。ジュニアカテゴリーへの参加は9チーム、54人であった。

この日は午後の部で3km個人追抜、夜の部で1kmタイムトライアルが行われた。個人追抜ではそれぞれに目標タイムを確認し、スタートさせた。タイムトライアル系種目は今回の遠征では初めてであり、彼らがどれだけ走れるか、どれだけ通用するのかを計る意味で重要な種目だった。

タイムについては須永が3分33秒、不破が3分36秒、坂本が3分40秒とそれぞれがベストに近い走りをし安心した。選手達は不安感からスタートをおさえて入ってしまったためタイムが伸びなかったと考えられる。それを改善すれば今後さらにタイムを伸ばすことができると感じた。ただ、オーストラリア勢の走りは我々にもっと厳しい現実を突きつけるものだった。

予選の1番時計は3分19秒。他にも3

分20秒台が8人もいた。日本のトップタイムの須永でさえ対戦相手に追い抜かれるなど、中距離種目のこの実力差はとてつもなく大きい。また選手層の厚さは脅威的である。話によると、ナショナル代表選手選考において個人追抜が重要視されており、この種目から多数の選手が選ばれるため、選手達はそこに絞ってくるのだという。日本では『短距離選手』のスピードを持った選手が、持久的なトレーニングを積んでこの種目で競い合っているのである。日本ではあまり重視されていない種目であるが、日本の競技力を本当に充実したものにするために、改めて取り組んでみる価値はあると思った。

1kmタイムトライアルは松川がかるうじて1分8秒台であったが、飯塚は1分10秒、三木1分12秒と不発に終わってしまった。この結果については走り方などよりもコンディションの問題であったと分析する。

2月7日(火)

この日は午後の部でスプリント予選、夜の部で25kmポイントレースがあった。

まずスプリント予選。これまでトレーニングをしてきたメルボルンのトラック(DAREBIN International Sports Centre、ボードフォンアリーナ)との違いに対応しきれなかったこと、適切なギアを選択できなかったことが原因でタイムが伸びなかった。

結果は坂本の11秒637が最高で、全員

予選通過はならなかった。ポイントレースは、開始時間が我々の予測よりもはるかに早く、ウォーミングアップが少し足りないままのスタートとなってしまう。これまで非常に良い走りをしてきた須永だけに残念であった。時間の確認はスタッフの責任であるので今後の教訓としたい。

レースには各チームが3名ずつ出走してきており、それぞれがレベルの高いチームプレーをして戦ってくるので、日本選手が1人で戦うには大変厳しかった。ポイント獲得を狙うもアシストの選手に阻まれ、また先頭集団を追っては足を使わされるという展開で健闘むなしくリタイアとなった。

2月8日(水)

この日はレースが無く、昼までゆっくり過ごす。夕方1時間半ほどトラック練習を行い、夜の部のレースを観戦した。

2月9日(木)

午後の部で団体追抜、夜の部で10kmスクラッチがあった。

団体追抜は目標タイムを4分30秒とした。現在そのタイムが出るとは考えにくかったが、相手チームに追いつかれないためにも、そして今後のためにもこれくらいのタイム設定をする必要があると考えた。実際、そのペースを保つことは難しく、後半、遅い時には17秒5まで落ちてしまった。追い抜かれこそ免れたがギリギリといったところであった。今回は短距離選手中心のチー



ム構成であり、チーム追抜を走るには力のバランスが悪かった。しかし須永、不破の両選手は立派な走りを見せた。チーム構成と練習次第では十分に4分20秒台を狙える可能性を感じさせてくれた。それにしても、他チームのレベルの高さに驚かされた。ジュニアの部の最高タイムは4分17秒617。その他4分20秒台が4チーム。30秒台は日本のみ(4分37秒621)であった。エリートの優勝タイムにいたってはなんと4分13秒216。そのスピードと迫力に圧倒されてしまった。

10kmスクラッチは大島、関根、真船の三人がエントリー。ポイントレースの反省から、早い時間から入念なウォームアップをして臨んだが序盤からのハイペースとチームプレーに翻弄されてしまった。なかなか前に出ることができず、前半は後方でチャンスを待つしかなかった。中盤に真船はカウンターの逃げを試みるなど積極的な走りを見せたが実らず、再び集団後方へ追いやられてしまいリタイア。関根はハイペースの展開に追走するのがいっぱい最後にはちぎられてしまう。ゴールスプリントに期待していただけに残念であった。

大島は後半になり、集団の中ほどに位置を保ちゴールを狙った。先頭から10番手あたりの位置でラスト1周に入り巻き返しを図るが、運悪く他選手と接触。その結果アウト側へふくらんだ所を反則ととられ、9着でゴールするも降格となり21位という判定。惜しい結果となってしまった。

2月10日(金)夜の部でケイリンが行われた。予選の関根、スタートは7コースであった。何とか前の位置を取りたいところであったが簡単にはいかなかった。メルボルンでのケイリンレースのような果敢な走りが見られず、今回は消極的なレースで4着。予選落ちとなってしまった。

松川は堂々の先行を見せ、1着で予選通過。決勝では、中段の位置からうまく流れに乗り4着でゴールした。位置取りの重要性、自分でレースを動かしていくことの難しさを感じたと思う。

2月11日(土)18:00よりレース開始。いよいよチームスプリントである。こちらへ来て状態を見ながら考えたベストメンバーで臨んだ。1走:飯塚、2走:松

川、3走:関根の順。1走は18秒500で、手元では1番のタイムであった。しかし2走、3走が平凡なタイムに終わり49秒602で第4位。日本チームはオープン参加ということで3・4位決定戦には進めず、この時点で終了となった。

予選1番時計はウエスタンオーストラリア。1走は18秒971であったが、続く2走、3走が非常に強かった。その後の決勝でも47秒502のタイムを出し優勝した。

そしてオーストラリア選手権の最後の種目となったのが吉井功治の出場する40kmポイントレース。160周でレースは行われたが、20名中完走8名という過酷なレースになった。

各チームがチームプレーで戦う中、1人で戦うのは本当に厳しく、我慢の連続であった。ハイペースな展開から、中盤エース格選手3名の逃げが決まり上位3名が確定した。吉井も隙を見ては逃げを試みるが決まらない。残り6周で捨て身の逃げを仕掛けるが、それも決まらなかった。結果は第4位。「ラスト40周からは足が痙攣し、高校生達が見ていなかったらリタイアしたかも…」という言葉のとおり厳しいレースだったが、最後まであきらめずに果敢に走る姿を見て、選手達はきっと何かを感じてくれたと思う。

#### [ 競技結果 ]

##### スプリント予選

1 Scott SUNDERLAND	10.760
2 Byron DAVIS	10.912
3 Daniel ELLIS	11.023
13 坂本 貴史	予選不通過 11.637
16 飯塚 隼人	予選不通過 11.812
17 三木 翔太	予選不通過 12.263

##### 3km個人追抜競走予選

1 Cameron MEYER	3:19.632
2 Hayden JOSEFSKI	3:22.723
3 Leigh HOWARD	3:23.401
16 須永 優太	予選不通過 3:33.697
21 不破 将登	予選不通過 3:36.864
23 坂本 貴史	予選不通過 3:40.716

##### 1kmタイムトライアル

1 Scott SUNDERLAND	1:05.027
2 Leigh HOWARD	1:06.502
3 Jeremy HOGG	1:06.554
11 松川 高大	1:08.936
14 飯塚 隼人	1:10.440
19 三木 翔太	1:12.403

##### スラッチ(10km)

1 Leigh HOWARD
2 Cameron MEYER
3 Jack BOBRIDGE
20 関根 章人

21 大島 将人

真船圭一郎 DNF

ポイントレース(25km)

1 Cameron MEYER	23p
2 Hayden JOSEFSKI	17p
3 Jack BOBRIDGE	11p

須永 優太 DNF

ケイリン

1 Daniel ELLIS	
2 Byron DAVIS	
3 Scott SUNDERLAND	
4 松川 高大	
関根 章人	予選4位不通過

チームポイント予選

1 Western AUSTRALIA	47.680
2 Queensland	48.266
3 New South Wales	48.800
4 日本 飯塚・松川・関根(オープン)	49.602

4km団体追抜競走予選

1 Western AUSTRALIA	4:17.617
2 Victoria	4:21.474
3 Queensland	4:21.789
6 日本 不破・須永・大島・坂本	4:37.621

予選不通過

#### [ 総括 ]

本事業の実施決定から出発までが短期間であったために、関係の方々、特に派遣選手の所属校と家庭には多くの無理を聞いていただき、また多大なるご協力をいただいた。心より感謝申し上げます。また現地に於いて、本当に献身的にお世話していただいた吉井さん。選手として練習やレースに参加しながら、連日、我々の世話に走り回っていただき、大変な気苦労をおかけした。また、走る姿でもって生徒達に熱い心を伝えていただいたことは何よりも有り難いことであった。感謝申し上げます。

今回の遠征では私自身、貴重な経験をさせていただき、大変良い勉強になった。生徒たちも同様であると思う。しかし生徒にとって本当に重要なのは、我々がミーティングなどで話したことよりも、彼ら自身が自分で見たり、感じたりしたことである。海外のレースの楽しさや会場の熱気溢れる雰囲気を知って、そこで再び走りたい、あの歓声を浴びたいと思ってくれたならば、この遠征は成功だと思う。

(監督 百々 敦史)



2006年 UCIロード登録チーム [www.uci.ch](http://www.uci.ch)

## UCIプロフェッショナル・コンチネンタル・チーム

スキル・シマノ / SKIL-SHIMANO (SKS) - NED [www.professionalcyclingteam.com](http://www.professionalcyclingteam.com)

Riders: 阿部 良之・土井 雪広・廣瀬 佳正・狩野 智也・野寺 秀徳・大内 薫・品川 真寛・辻 貴光・山本 雅道  
 LANGEVELD Sebastian・REINERINK Rik・ROOIJAKKERS Piet・TJALLINGII Maarten・  
 VAN HUMMEL Kenny Robert・VIERHOUTEN Aart・WALLAARD Arno (以上NED)  
 MARTENS Paul・MESCHENMOSER Christoph・WEISSINGER René (以上GER)  
 LONG Jin・XU Fang (以上CHN)

Manager / Team Manager: SCHEPPINK A.J.

Ass. Manager: SPEKENBRINK I.G.L.H

Team Manager: 坂東 晃・今西 尚志・KEMNA Rudi・HOEKSTRA P.

## UCIコンチネンタル・チーム

愛三工業レーシング / AISAN RACING TEAM (AIS) - JPN [www.aisan.net](http://www.aisan.net)

Riders: 秋田 謙・綾部 勇成・別府 匠・廣瀬 敏・郡山 善貴・盛 一大・西谷 泰治・新保 光起・田中 光輝  
 Team Manager: 横井 彰人  
 Ass. Team Manager: 市川 雅敏  
 Representative of the team: 中根 賢二

チーム・バン / CYCLE RACING TEAM VANG (VAN) - JPN

Riders: 新城 幸也・福島 康司・福島 晋一・井上 和郎・宮澤 崇史・水谷 壮宏・佐野 淳哉・清水 都貴・田中 聡  
 Team Manager: 浅田 顕  
 Representative of the team: 長 弘昌

マトリックス / MATRIX (MTR) - JPN [www.matrix-inc.co.jp](http://www.matrix-inc.co.jp)

Riders: 橋川 健・日置 大介・堀田 大輔・真鍋 英祐・三浦 恭資・森 真博・向川 尚樹・向川 訓司・長野 耕治  
 中川 康二郎・佐野 友哉  
 Team Manager: 古谷 麻里子・安原 昌弘  
 Representative of the team: 安原 昌弘

ミヤタ・スバル / MIYATA-SUBARU (MYT) - JPN [www.miyata-subaru.com](http://www.miyata-subaru.com)

Riders: 柿沼 章・増田 成幸・三船 雅彦・森山 大知・中村 誠・西村 拓也・鈴木 真理・高野 淳・津末 浩平  
 山下 貴宏  
 Team Manager: 栗村 修  
 Ass. Team Manager: 元木 則之  
 Representative of the team: 畑島 直人

(順不同)

## 2006年度 JCF MTB レースカレンダー (案)

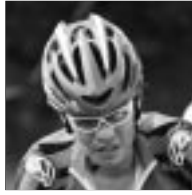
(2006.3.15現在)  
日程は変更の可能性あります。

期 日	大会・事業名	種 目	場 所
4月22日～23日	MTBジャパンシリーズ・八幡浜	XC	愛 媛・八幡浜
5月05日～06日	MTBジャパンシリーズ・箱館山	XC・DH	滋 賀・箱館山
5月26日～28日	MTBジャパンシリーズ・泉ヶ岳	XC	宮 城・泉ヶ岳
6月03日～04日	MTBジャパンシリーズ・富士見	XC・DH	長 野・富士見
6月24日～25日	MTBジャパンシリーズ・田沢湖	XC	秋 田・田沢湖
7月15日～17日	2006年全日本MTB選手権大会	XC・DH・4X	石 川・瀬 女
7月29日～30日	MTBジャパンシリーズ・白馬さのさか	XC	長 野・白馬さのさか
8月22日～27日	2006年MTB世界選手権大会	XC・DH・4X	ニュージーランド・ロトルア
9月02日～03日	MTBジャパンシリーズ・白鳥	DH	岐 阜・白 鳥
9月09日～10日	MTBジャパンシリーズ・大鱈	XC・DH	青 森・大鱈
9月16日～17日	2006年MTBアジア選手権大会	XC・DH	ベトナム
9月23日～24日	MTBジャパンシリーズJ2・富士見	DH	長 野・富士見
10月21日～22日	MTBジャパンシリーズJ2・日本CSC	XC	静 岡・日本CSC

# 2005 MTB ランキング

## [ MTB・クロスカントリー ]

### 男子エリート



1位 野口 忍  
京都(M)  
910 p

E	氏名	所属	Cl	Point
2	鈴木 雷太	長野	M	825
3	色川 浩樹	茨城	E	823
4	山口 孝徳	長野	M	807
5	小笠原 崇裕	長野	E	739
6	辻浦 圭一	奈良	E	733
7	白石 真悟	大阪	E	714
8	松本 駿	長野	E	639
9	山本 和弘	北海道	E	629
10	山本 幸平	新潟	U	622
11	門田 基志	愛媛	E	591
12	小野寺 健	北海道	U	568
13	山田大五郎	福岡	E	505
14	堂城 賢	北海道	M	496
15	神谷 知明	東京	M	492
16	江下健太郎	愛知	E	491
17	笹部 勝	大阪	M	490
18	藤本 弥之助	山口	E	469
19	竹之内 悠	京都	J	444
20	後藤 清作	長野	E	440
21	大橋 穂高	山梨	U	420
22	小林 聖	長野	M	419
23	橋田 淳一郎	東京	M	392
24	有井 雄二	東京	M	368
25	角田 英朗	東京	M	358
26	深谷 幸彦	北海道	M	348
27	山辺 誠司	埼玉	E	348
28	谷口 知司	神奈川	E	333
29	武藤 常雄	愛知	M	306
30	須藤 大輔	千葉	M	302
31	澤田 泰征	東京	M	293
32	柴田健太郎	大分	M	287
33	梅村 昌孝	福岡	M	282
34	佐藤 賢寿	東京	M	282
35	佐藤航太郎	神奈川	E	271
36	石黒 大樹	山形	M	271
37	田原 雅裕	神奈川	E	268
38	森 和規	三重	E	262
39	都築 正浩	愛知	M	254
40	橋本 龍聖	熊谷	J	251
41	鈴木龍之介	愛媛	J	243
42	八木田健一	福島	M	243
43	丹蔵 智治	愛媛	M	240
44	宇田川 聡仁	静岡	E	228
45	久保 伸次	京都	M	226
46	船岡 洋	兵庫	M	224
47	畦地 利哉	岐阜	M	222
48	中間 森太郎	埼玉	E	218
49	湯本 優	東京	E	207
50	水上 今日史	富山	E	204
51	竹谷 賢二	千葉	M	200
52	亀井 潤一	愛知	M	200
53	今井 雅士	岡山	U	194
54	沢田 雄一	長野	M	194
55	横山 徹	神奈川	M	194
56	武井 亨介	茨城	E	193
57	入江 克典	大阪	M	191
58	山本 聖吾	長野	U	191
59	太田 直秀	長野	M	190

E	氏名	所属	Cl	Point
60	小野 良太	兵庫	M	189
61	金井 良樹	愛知	M	183
62	藤森 大輝	香川	U	181
63	今井 智昭	京都	M	179
64	衣本 始司	京都	M	176
65	三上 和志	埼玉	M	175
66	佐藤 あきら	愛知	E	171
67	合田 正之	埼玉	M	169
68	代田 和明	千葉	M	167
69	奥村 貴	熊本	E	166
70	新井 孝典	神奈川	M	166
71	北島 篤志	東京	E	165
72	リチャード・ナップ	長野	M	160
73	山崎 常生	愛知	E	159
74	江藤 浩一	岐阜	M	158
75	初山 幸男	栃木	M	155
76	宮本 典彦	大阪	E	155
77	奥村 翔	東京	U	151
78	宮本 優	千葉	U	143
79	梯 昌廣	長野	M	143
80	田口アツシ	愛知	M	143
81	稲垣 隆司	埼玉	M	139
82	海老原 茂明	栃木	M	139
83	村田 隆	長野	M	138
84	角田 和男	広島	M	137
85	山本 朋貴	滋賀	M	134
86	日野林 昂志	愛媛	J	134
87	山田 夏樹	北海道	M	130
88	松尾 和昌	福岡	M	127
89	橋本 賢毅	東京	M	126
90	那須 宏幸	大阪	M	123
91	渡辺 清一	三重	E	122
92	大江 良憲	山形	E	119
93	酒井 孝典	大阪	M	115
94	宮本 光司	千葉	M	112
95	高井 佑介	埼玉	E	109
96	高橋 聡一	大阪	E	106
97	三井 寿展	宮崎	M	102
98	マイカ・クラック	東京	M	100
99	元島 武文	長野	M	90
100	宮田 敬一	岡山	M	88
101	福田 吉孝	福岡	M	86
102	浜 久之	長野	M	82
103	内藤 浩司	三重	M	71
104	市川 哲也	広島	M	66
105	佐藤 貴巳	大分	M	60
106	千田 尚孝	愛知	U	60
107	矢野 大介	山梨	M	59
108	鈴木 禄徳	千葉	J	55
109	水谷 幸隆	三重	M	54
110	栗田 徳久	静岡	M	47
111	菅 隆弘	大分	E	41
112	伊藤 元紀	愛知	M	41
113	檀 拓磨	長野	M	36
114	マーカ・バカ	福岡	M	35
115	菅間 圭介	青森	M	28
116	内村 猛	栃木	M	28
117	三村 元基	千葉	E	26
118	赤尾 健太郎	大分	E	11
119	大音 雅裕	大阪	M	10
120	鈴木 博信	鹿児島	M	8
121	後藤 薫	山口	M	7



## 女子エリート



1位 片山 梨絵  
神奈川(E)  
1020 p

F	氏名	所属	Cl	Point
2	真下 正美	神奈川	E	877
3	中込 由香里	長野	M	825
4	田近 郁美	岐阜	M	773
5	深井 薫	大阪	M	741
6	矢沢 みつみ	山梨	M	697
7	田崎 綾	千葉	M	680
8	長井 美香	京都	E	649
9	信賀 直子	神奈川	M	515
10	齋藤 磨実	神奈川	E	472
11	山本 萌	北海道	Y	406
12	喜安 万里子	愛媛	E	393
13	大塚 香	北海道	E	376
14	櫻本 惠津子	宮城	E	359
15	狩俣 けい子	大阪	E	342
16	岐部 容子	福岡	M	309
17	酒井 真清	大阪	M	302
18	田中 クララ	埼玉	M	263
19	志村 みち子	埼玉	M	255
20	佐藤 百江	東京	E	242
21	佐々木 優子	茨城	E	202
22	鈴木 里美	神奈川	M	196
23	菅原 亮香	岩手	E	138
24	池田 桂子	大阪	E	87
25	菊川 明子	岡山	U	63

MTB クラス区分	
XC	DH
M : 30歳以上	M : 30歳以上
E : 23-29歳	E : 19-29歳
U : 19-22歳	J : 16-18歳
J : 17-18歳	Y : 15歳以下
Y : 16歳以下	

## 女子スポーツ

SP	氏名	所属	Cl	Point
1	笹本 みき	山梨	M	600
2	丸山 八智代	長野	M	521
3	出町 有希	岩手	E	505
4	光田 真基	三重	E	475
5	濱口 珠実	大阪	E	454
6	埜 賢美	大分	Y	447
7	山本 佳苗	岡山	U	411
8	丸田 京	東京	Y	407
9	森 涼子	京都	U	356
10	一之瀬 幹子	長野	M	346
11	正木 知子	兵庫	M	337
12	本間 公子	秋田	M	315
13	東 陽子	滋賀	M	269
14	小川 真由美	香川	M	269
15	松本 こずえ	宮城	M	236
16	浦谷 真紀	大阪	M	220
17	遠藤 恵理子	秋田	E	205
18	長島 知子	滋賀	M	197
19	奈比川 純子	愛知	M	175
20	三浦 美穂	福岡	Y	175
21	松田 ゆかり	愛媛	E	165
22	伊坂 和花	兵庫	U	157
23	伏見 幸希子	埼玉	M	147
24	内田 順子	東京	M	120
25	渡辺 キリ	長野	M	110

男子エキスパート

EX	氏名	所属	Cl	Point	EX	氏名	所属	Cl	Point
70	大橋 尚哉	千葉	M	138	141	松本 開	岩手	M	53
71	西村 正敏	岐阜	M	136	142	沖本 篤	山口	M	51
72	村田 誠	兵庫	M	135	143	山木 誠一	山形	M	50
73	大橋 優	京都	M	132	144	重松 大輔	岡山	M	49
74	山中 真	愛知	E	127	145	渡辺 敦	愛知	M	49
75	山田 拓郎	長野	E	125	146	木曾 将史	秋田	E	49
76	堺 章吾	神奈川	E	124	147	小林 和弘	埼玉	M	49
77	石田 聡	山口	E	119	148	榭 泰将	愛知	M	48
78	松本 秀樹	岡山	M	117	149	小野 誠	秋田	M	48
79	鈴木 良典	山梨	M	115	150	青野 哲也	茨城	E	48
80	渡部 忍	静岡	M	113	151	佐原正二郎	愛知	M	46
81	合田 啓祐	香川	Y	111	152	田中 通典	埼玉	M	46
82	岡 三津夫	大阪	M	111	153	三田 雅之	大阪	M	44
83	福田 真平	神奈川	J	110	154	日下田 伸	東京	M	44
84	大類 正洋	神奈川	U	108	155	宮本 泰典	徳島	M	43
85	木澤 一朗	奈良	E	106	156	竹田 徳彦	山形	E	42
86	山本 茂	岡山	M	104	157	木村 季之	愛知	M	42
87	山本 鎮夫	北海道	M	103	158	深井 一郎	大阪	M	42
88	宮澤 潤	長野	M	103	159	石田 岳大	鳥取	E	40
89	吉田 聡	千葉	M	101	160	皆神 武史	茨城	M	38
90	成田 大助	北海道	E	98	161	井戸 孝祐	愛知	U	36
91	五味 隆登	東京	M	97	162	井戸 孝祐	愛知	U	36
92	西垣内裕治	東京	M	97	163	齋藤 史明	兵庫	U	34
93	江部 敏	新潟	M	96	164	福原 洋介	東京	M	32
94	藤川 浩行	栃木	M	96	165	竹之内 脩兵	京都	U	32
95	熊澤 雄介	東京	E	96	166	松尾 大輔	愛媛	U	32
96	岡本 和也	栃木	M	95	167	谷川 智明	群馬	M	32
97	佐宗 広明	東京	M	93	168	小池 智之	兵庫	M	30
98	細 剛士	千葉	E	93	169	柴木 史行	群馬	E	30
99	金森 修一	奈良	M	92	170	名坂 竹彦	静岡	E	29
100	小曾根 誠	北海道	U	92	171	多端 亮	奈良	U	28
101	小野寺 寛之	埼玉	M	91	172	大橋 達矢	埼玉	E	26
102	松井 良平	長崎	M	91	173	中野 貴文	茨城	M	26
103	山中 晴彦	茨城	M	91	174	橋本 浩二	愛知	M	25
104	石倉 大義	神奈川	U	91	175	松岡 靖之	京都	M	24
105	小杉 誠	愛知	E	90	176	丸田 直	東京	Y	22
106	柿内 秀介	三重	M	90	177	川中 直浩	長崎	M	21
107	木下 聡之	大阪	M	90	178	高倉 亮	東京	M	20
108	光山 明	茨城	M	88	179	大橋 正明	愛知	E	16
109	國延 和弘	広島	M	87	180	今泉 智仁	福島	M	15
110	今井 康太	岡山	U	87	181	池内 康太	栃木	M	11
111	余語 賢司	愛知	M	86	182	内野 善文	山口	M	10
112	三村 義則	岡山	M	86	183	岡本 津悟	愛媛	M	10
113	石山 恭央	長野	M	80	184	中村 健二	愛媛	M	9
114	平野 正博	千葉	E	78	185	宮元 雅史	北海道	M	7
115	依田 卓也	東京	M	77	186	小原 拓生	鳥根	M	6
116	増田 和久	長野	M	75	187	山田 豪	神奈川	E	5
117	佐藤 健太郎	栃木	M	75	188	道広 裕介	岡山	E	5
118	柳橋 貞博	茨城	M	74	189	向田 慎二	愛知	M	5
119	岡本 央則	大阪	M	73	190	永田 一義	岡山	M	4
120	小澤 清	新潟	M	72	191	河合 光彦	岐阜	U	1
121	田近 雄一	岐阜	M	70					
122	常原 圭介	山梨	M	69					
123	久保 智章	香川	M	69					
124	佐々木 隆成	秋田	M	68					
125	河野 朋亮	広島	M	68					
126	森田 康史	神奈川	M	67					
127	紺藤 政憲	和歌山	M	67					
128	向平 博幸	奈良	E	65					
129	山西 健司	埼玉	E	63					
130	中山 和也	長野	Y	63					
131	竹田 佳行	埼玉	M	62					
132	山田 智	東京	M	62					
133	泉名 雄介	兵庫	M	61					
134	筋野 俊昭	東京	M	58					
135	房野 雅治	岡山	M	58					
136	深澤 真己	東京	E	57					
137	樺澤 正己	栃木	M	56					
138	安地 勲	福岡	M	55					
139	紫芝 智志	愛知	M	54					
140	岩本 栄作	広島	M	54					



男子スポーツ

Table with 11 columns: SP, 氏名, 所属, Cl, Point. It lists two sets of cyclist data. The first set (SP 72-144) includes names like 文蔵亮介, 西村建治, 加藤悟, etc. The second set (SP 145-217) includes names like 正木浩史, 岸新一郎, 滝下泰民, etc. Each row shows a cyclist's score (SP), full name (氏名), team (所属), category (Cl), and total points (Point).



[ MTB・ダウンヒル ]

男子エリート

1位 井手川 直樹  
 広島(E)  
 887 p



E	氏名	所属	Cl	Point
2	内嶋 亮	東京	E	871
3	安達 靖	愛知	E	762
4	丸山 弘起	長野	E	760
5	永田 隼也	神奈川	J	633
6	竹本 将史	埼玉	E	615
7	丸山由紀夫	愛知	E	614
8	柴田 幸治	神奈川	E	605
9	向原 健司	大阪	E	553
10	大島 礼治	兵庫	M	516
11	高橋 唯之	福島	E	508
12	金子 真吾	北海道	E	468
13	塚本 岳	長野	M	454
14	及川 功申	神奈川	E	453
15	青木 卓也	東京	E	439
16	三宅 和之	埼玉	M	435
17	小山 航	新潟	J	431
18	河合 良紀	三重	M	422
19	和田 良平	大阪	E	385
20	青柳修一郎	東京	E	381
21	栗瀬 裕大	大阪	E	370
22	朝日 昌彦	大崎	E	350
23	伊藤 良高	愛知	E	343
24	門脇 祥	新潟	Y	320
25	加納慎一郎	静岡	E	299
26	河合 暁延	愛知	E	288
27	伊田井佐夫	東京	M	287
28	三輪 和弘	神奈川	M	281
29	伊藤 雅人	北海道	E	280
30	淵野 厚志	静岡	E	276
31	三山 孝幸	石川	M	275
32	櫻井 孝太	新潟	E	258
33	角野 正樹	山梨	M	255
34	赤堀 吉功	岐阜	M	249
35	伊藤 康喜	東京	M	240
36	岩手 信	和歌山	E	236
37	上原 丈史	長野	E	232
38	黒川陽二郎	石川	E	225
39	武井怜緒奈	東京	E	208
40	阿藤 寛	大阪	E	208
41	東 裕一郎	石川	M	207
42	兼子雄一郎	愛知	E	204
43	渡辺 濃	神奈川	E	199
44	浅田 亨	大阪	E	193
45	斉藤 邦一	東京	E	192
46	池田 隆之	東京	M	190
47	山崎 勉	栃木	M	188
48	有村 俊彦	神奈川	M	172
49	八巻 守仁	山形	M	171
50	沖田 勝秀	神奈川	M	170
51	竹内 豪	兵庫	E	169
52	今中 伸介	東京	M	166
53	佐藤 宗彦	東京	E	163
54	成島 紀晶	茨城	M	162
55	鍋島 健一	福岡	M	159
56	長内 知人	静岡	E	158
57	熊野 賢	愛知	M	158
58	西村 智彦	大阪	M	155
59	山本 明	兵庫	M	149
60	関 誠利	宮城	M	148
61	河津 英樹	愛知	E	147
62	松田 敦司	神奈川	M	147
63	鎌田 勝	大阪	M	147

E	氏名	所属	Cl	Point
64	安藤 功治	山梨	E	144
65	牧野 将勅	兵庫	E	144
66	赤澤 勝	岡山	E	143
67	荒金 知史	兵庫	E	134
68	山口 弘貴	岐阜	M	129
69	野川 晴彦	東京	E	116
70	松永 貴敏	大阪	M	112
71	大窪 貴之	兵庫	M	112
72	天野 雅人	愛知	E	111
73	生澤 晃	栃木	M	105
74	飯田 隆彦	東京	J	103
75	鈴木 悟史	石川	E	100
76	鈴木 正司	京都	M	94
77	波多野真弘	愛知	M	84
78	神戸 明介	愛知	E	82
79	山村 優介	兵庫	E	82
80	長内 明人	静岡	E	79
81	山崎 真嗣	滋賀	E	78
82	鳥塚 康史	東京	M	77
83	柳澤 誠	東京	M	77
84	実川ともを	東京	M	68
85	河野 鉄平	福岡	E	64
86	福田 誠	神奈川	M	61
87	三谷 賢一	京都	M	50
88	古性 優作	大阪	Y	49
89	植田 篤	兵庫	E	43
90	高羽英士朗	愛知	E	36
91	西上 光治	大阪	E	28
92	渡辺 勇大	静岡	E	21
93	増田 直樹	滋賀	E	16
94	川村 浩明	宮城	E	14
95	高橋 大喜	東京	E	12
96	岩瀬 信彦	埼玉	M	9

男子エキスパート

EX	氏名	所属	Cl	Point
1	望月 克彦	静岡	M	444
2	東 裕二郎	石川	M	426
3	岡 修平	大阪	E	411
4	五十嵐勇樹	神奈川	Y	373
5	若林 正幸	東京	M	372
6	山吉 佳一	広島	E	368
7	遠藤 和光	東京	M	365
8	谷 史朗	奈良	M	364
9	河井 裕介	愛知	M	342
10	川口 浩二	静岡	E	328
11	佐藤 守	宮城	M	324
12	楮本 哲也	兵庫	E	316
13	齋藤 修	栃木	M	311
14	小川信一郎	新潟	M	306
15	深堀 俊之	埼玉	M	303
16	秋山 耕平	東京	M	295
17	三浦 恭敬	神奈川	M	292
18	高篠 憲司	埼玉	M	289
19	飯塚 智史	茨城	E	281
20	吉田 五郎	愛知	M	278
21	熊澤 雄介	東京	E	273
22	石井 将嗣	新潟	E	263
23	辻本 秀信	大阪	E	261
24	志賀 孝治	山口	E	250
25	池澤 宜昭	栃木	E	247
26	平田 哲教	愛知	M	246
27	濱田 雄二	群馬	E	243
28	栗田 高夫	静岡	M	236
29	若井 慶太	新潟	Y	233
30	田中 秀樹	神奈川	M	221
31	峰江裕一郎	北海道	M	209
32	高篠 博久	神奈川	M	206
33	大村 寿男	栃木	M	198
34	岩崎 篤士	茨城	M	196
35	本橋 卓磨	東京	J	190
36	松岡 学	神奈川	M	189
37	池澤 誠	栃木	M	186
38	田村 隆章	東京	M	183
39	名取 弘展	長野	M	181
40	谷口 晴彦	石川	E	180
41	皆藤 研一	茨城	M	178
42	岩淵 史彦	岩手	E	172
43	土屋 清之	茨城	M	170
44	門脇 佑仁	新潟	Y	170
45	山元 春雄	富山	M	167
46	内藤 順仁	静岡	M	166
47	下林 宏之	愛知	M	165
48	和賀 誠	静岡	M	155
49	平林 剛	長野	M	153
50	高橋 輝照	大阪	M	151
51	黒川 優樹	東京	E	151
52	阿部真太郎	秋田	E	151
53	宮本 研一	高知	M	147
54	石渡 彰	神奈川	E	145
55	橋 龍彦	石川	E	144
56	荻島 聡	埼玉	M	142
57	佐多健太郎	埼玉	E	142
58	中村 克哉	福岡	E	141
59	工藤 英昭	岩手	M	138
60	松本 圭	東京	E	138
61	淮田 一磨	神奈川	M	137
62	沼川 恭誌	東京	E	137
63	船山 浩幸	宮城	M	127
64	藤村 浩臣	山口	M	127
65	雨宮 真吾	山梨	M	118
66	杉江 由尚	愛知	E	115
67	北山 幸治	埼玉	M	115
68	伊津 宏俊	新潟	M	114
69	川口 悟司	埼玉	M	112

女子エリート

1位 末政 実緒  
 兵庫(E)  
 950 p



F	氏名	所属	Cl	Point
2	猪俣 浩子	神奈川	E	803
3	飯塚 朋子	大阪	E	735
4	福本 弘佳	兵庫	M	735
5	渡辺 ユキ	長野	M	685
6	富田 敬子	奈良	M	623
7	池田 恭子	東京	M	606
8	服部 良子	神奈川	E	604
9	大西 雅美	兵庫	E	542
10	田崎 綾	千葉	M	530
11	堀田 直子	愛知	M	528
12	楮本百合子	兵庫	M	521
13	安達 勅実	埼玉	E	437
14	菅原 亮香	岩手	E	182

女子スポーツ

SP	氏名	所属	Cl	Point
1	前 さつき	大阪	E	560
2	稲葉久美子	千葉	M	475
3	平出 優樹	長野	E	280
4	松田美紀子	富山	M	235
5	佐藤 尚子	大阪	M	130

EX	氏名	所属	CI	Point	EX	氏名	所属	CI	Point	SP	氏名	所属	CI	Point
70	松山 博太	石川	E	108	141	小杉 貴士	滋賀	M	22	45	窪田 正宏	岐阜	M	150
71	佐伯 拓也	埼玉	M	106	142	栗田 秀隆	千葉	M	22	46	福永 幸男	山梨	M	149
72	吉川 寛基	愛知	E	104	143	田井 一雄	岡山	M	22	47	松尾 太一	兵庫	M	144
73	坂口 祥崇	大阪	E	104	144	宇佐美 雅司	兵庫	E	21	48	上村 伸寿	山口	E	142
74	伊藤 重徳	大宮	M	104	145	早川 祐一郎	兵庫	E	20	49	浅井 宏充	静岡	M	142
75	藤田 武士	東京	M	103	146	井関 猛	滋賀	M	18	50	藤塚 洋	富山	M	141
76	大熊 健敬	埼玉	M	102	147	祖田 輝之	東京	M	17	51	谷内 信之	高知	M	141
77	鈴木 徹郎	神奈川	M	102	148	北崎 友和	大阪	E	17	52	牛場 文郎	愛知	M	137
78	渡辺 修一	愛知	M	100	149	野口 寛洋	岐阜	E	16	53	木原 功一郎	愛知	E	135
79	内田 進	千葉	M	97	150	惣津 五朗	東京	E	13	54	石田 楓馬	大宮	Y	130
80	石立 守利	東京	M	95	151	川口 芳孝	岐阜	E	12	55	湯浅 勉	千葉	M	130
81	三輪 隆文	福岡	J	94	152	川崎 俊明	静岡	E	12	56	山田 恭太郎	愛知	M	127
82	阿部 吉邦	大阪	M	92	153	加藤 正宏	東京	E	12	57	落合 健一	北海道	M	120
83	名合 大輔	大阪	M	90	154	武氏 宗平	大阪	E	11	58	上山 泰弘	愛知	M	120
84	坂中 栄三	富山	M	90	155	坂井 和広	大阪	M	10	59	植川 英治	静岡	M	115
85	作山 義彦	山手	M	89	156	澤辺 徳明	東京	M	10	60	館 正訓	福岡	M	114
86	西山 典秀	岐阜	E	88	157	武藤 哲聖	静岡	E	9	61	高岡 弘	和歌山	M	113
87	渡邊 貴幸	東京	M	87	158	久保 和範	三重	E	8	62	竹内 洋平	高知	E	110
88	澤 龍太郎	大阪	E	82	159	高力 俊宏	大阪	M	6	63	鈴木 雄之	愛知	E	110
89	村上 賢二	富山	M	82	160	大塚 裕一	岐阜	M	5	64	横尾 太治	東京	E	107
90	大西 英二	岐阜	M	81	161	田沼 邦彦	埼玉	M	4	65	久保田 知	大阪	E	106
91	市川 純雄	神奈川	M	80	162	長谷川 博一	富山	E	4	66	村上 義一	北海道	M	102
92	小島 省吾	愛知	M	79	163	柳田 經典	神奈川	E	1	67	清水 学	大阪	M	97
93	大矢 有一	神奈川	E	78						68	竹中 康幸	岐阜	M	80
94	福田 佑二郎	東京	E	77						69	森木 太一	高知	E	75
95	前瀬 和颯	富山	M	77						70	佐藤 大雅	東京	E	73
96	清水 淳	栃木	E	75						71	堤 直樹	岐阜	M	70
97	折原 正義	埼玉	M	71						72	小嶋 高德	高知	M	68
98	永野 哲司	埼玉	M	71						73	田邊 重樹	静岡	E	65
99	入江 大介	京都	M	70						74	櫻本 寛大	愛知	E	58
100	渡邊 浩己	東京	M	70						75	青野 力	東京	E	58
101	高橋 裕一郎	大阪	E	68						76	武藤 雅人	埼玉	M	56
102	世登 靖	大阪	M	66						77	木須 修	佐賀	M	56
103	松本 純一	東京	M	66						78	増澤 拓也	茨城	E	51
104	村井 義之	秋田	M	65						79	和田 孝一	大阪	E	43
105	朝倉 幸雄	兵庫	M	64						80	上杉 俊輔	大阪	E	41
106	佐藤 敏則	岩手	M	62						81	田上 幸一	熊本	M	40
107	加部 智広	茨城	E	60						82	小田 憲男	岡山	E	40
108	鈴木 義孝	静岡	M	60						83	平井 亨弥	福井	M	36
109	岡本 孝学	兵庫	M	59						84	九島 勇気	神奈川	Y	36
110	栗林 慎	千葉	M	57						85	久保 博孝	大阪	M	32
111	奥野 信太郎	兵庫	E	57						86	佐藤 昌行	大阪	M	30
112	秋山 忍	岡山	M	57						87	尾前 靖	静岡	M	28
113	石崎 裕	神奈川	M	56						88	積田 高治	福島	M	26
114	丸小野 信男	大阪	M	56						89	河合 将宗	京都	E	24
115	高橋 弘幸	大新	E	51						90	葛生 寛征	栃木	E	23
116	岩朝 義徳	滋賀	M	49										
117	本村 貴之	福岡	M	48										
118	西尾 優一	東京	E	47										
119	喜安 祥隆	愛媛	M	46										
120	田中 洋	兵庫	M	45										
121	倉口 大	大阪	M	40										
122	中田 幸伸	大富	M	40										
123	青木 健司	愛知	E	39										
124	榊原 祐貴	静岡	E	36										
125	坂部 直樹	千葉	M	34										
126	久保寺 央	兵庫	M	34										
127	高橋 大	新潟	E	32										
128	宮本 光司	千葉	M	32										
129	木村 光好	北海道	M	31										
130	金子 博文	富山	M	30										
131	島村 昌宏	埼玉	M	29										
132	山崎 正憲	兵庫	E	29										
133	島津 利卓	石川	E	27										
134	湯浅 俊和	富山	E	27										
135	中村 正宏	東京	E	26										
136	池田 大昌	徳島	M	25										
137	谷口 達誉	京都	E	25										
138	南 篤志	兵庫	M	24										
139	西尾 覚	新潟	M	24										
140	清塚 力哉	東京	M	23										

男子スポーツ	SP	氏名	所属	CI	Point
	1	萩原 信之	埼玉	M	452
	2	杉岡 正一	大阪	M	421
	3	小坂 久	大阪	M	405
	4	深見 直人	神奈川	E	388
	5	山田 基史	愛知	M	379
	6	落合 邦康	埼玉	M	373
	7	山本 達郎	愛知	E	355
	8	森下 大剛	愛知	M	338
	9	谷口 亮太郎	愛知	M	333
	10	中山 直人	富山	M	319
	11	中川 裕之	大阪	M	318
	12	山口 史明	千葉	M	295
	13	山本 智裕	福井	E	287
	14	マーク・フィッシャー	埼玉	E	284
	15	清水 晶	愛知	M	282
	16	鹿師村 浩	大阪	M	276
	17	石澤 寛	神奈川	M	265
	18	佐藤 司	秋田	M	259
	19	高尾 正己	神奈川	M	255
	20	兼重 慎	神奈川	M	250
	21	内田 貴文	愛知	E	247
	22	山口 翔	愛知	E	245
	23	大野 良平	岐阜	E	229
	24	荒井 勉	埼玉	M	224
	25	岩田 尚久	大阪	M	223
	26	大塚 智文	石川	M	219
	27	窪田 利博	福井	M	217
	28	井上 功二	岩手	M	212
	29	下川 俊介	高知	M	209
	30	井上 貴裕	大阪	E	207
	31	川山 慎吾	大阪	E	204
	32	河野 秀幸	茨城	E	203
	33	宮本 祐太郎	神奈川	J	202
	34	和田 敦文	高知	E	201
	35	大岸 正憲	東京	M	201
	36	マクル・ライ	東京	M	193
	37	井上 怜	高知	E	193
	38	平出 健太郎	長野	E	192
	39	杉本 崇	大阪	M	175
	40	橋本 大志	高知	M	174
	41	西平 孝継	大阪	M	171
	42	新居 俊二	京都	M	163
	43	風間 直人	秋田	M	156
	44	亀井 潤一	愛知	M	151



## 2005-2006 シクロクロス ランキング

男子

1位 辻浦 圭一  
奈良  
203 p

女子

1位 荻島 美香  
埼玉  
57 p

F	氏名	所属	Point
2	田近 郁美	岐阜 卓	44
3	豊岡 英子	広島	29
4	酒井 真清	大阪	12
5	池田 桂子	大阪	10
6	狩俣けい子	大阪	8

M	氏名	所属	Point
2	小坂 正則	長野	89
3	白石 真悟	大阪	60
4	山本 幸平	北海道	41
5	丸山 厚	長野	38
6	三船 雅彦	JPCA	30
7	辻 善光	京都	25
8	石井 陽	京都	20
9	鈴木 雷太	長野	16
10	大原 満	愛知	9
11	武藤 常雄	愛知	2
12	竹之内 悠	京都	1
13	伊澤 優大	滋賀	1
14	藤岡 徹也	兵庫	1
15	入江 克典	大阪	1

2006UCIトラック世界選手権大会  
日本代表選手団

大会名 2006UCIトラック世界選手権大会  
大会日程 2006年4月13日～16日  
派遣日程 2006年4月8日～18日  
開催場所 フランス・ボルドー  
派遣選手団

団長 穴田 勝彦(JCF強化委員長)  
監督 福田 公生(JCF強化コーチ)  
コーチ 阿部 良二(JCF強化サブコーチ)  
メカニック 森 昭雄(JCF強化スタッフ)  
マッサー 柳 浩史(JCF強化スタッフ)  
随員 塚本 芳大(JPCA)  
通訳 谷貝えいじ(パリ在住)  
総務 山田 克彦(JCF選手強化部)  
佐藤 誠治(JPCA)  
選手 金子 貴志(JPCA愛知)  
稲垣 裕之(JPCA京都)  
井上 昌己(JPCA長崎)  
渡邊 一成(JPCA福島)  
北津留 翼(JPCA福岡)  
西谷 泰治(愛知・愛三工業)  
盛 一大(愛知・愛三工業)

世界大学自転車競技選手権大会  
日本代表選手団

大会名 世界大学自転車競技選手権大会  
大会日程 2006年3月23日～25日  
派遣日程 2006年3月21日～25日  
開催場所 ベルギー・アントワープ、ヘレントル  
派遣選手団

団長 井関 康正(日本学生自転車競技連盟理事長)  
監督 黒川 剛(鹿屋体育大学監督)  
コーチ 山宮 正(ベルギー在住)  
メカニック Kees HOPMANS(オランダ在住)  
副団長・通訳 松倉 信裕(日本学生自転車競技連盟常務理事)  
選手 三瀧 光誠(山形・鹿屋体育大学)  
秋山 英也(長野・日本大学)  
中島 康晴(福井・鹿屋体育大学)  
村上 純平(山形・鹿屋体育大学)  
辻 善光(福井・立命館大学)  
石井 陽(京都・立命館大学)  
山本 貴士(京都・京都大学)  
萩原麻由子(群馬・鹿屋体育大学)  
宮崎 杏菜(鹿児島・鹿屋体育大学)

この大会は、ユニバーシアードを主催する世界大学スポーツ連盟の管轄のもと、種目別に行われる世界選手権。自転車競技はユニバーシアードで公式競技になっておらず、ユニバーシアードで自転車競技が開催されたのは1983年が最後。本大会はユニバーシアードではなく、世界大学自転車競技選手権大会で、前回開催は1990年、実に16年ぶりで第4回目の開催となる。

## 広報委員会からのお知らせ 広報誌「シクリスムエコー」定期購読のご案内

平成14年度より「シクリスムエコー」個別郵送ご希望の方には、郵送手数料の一部をご負担いただいております。平成18年度につきましても、ご負担をお願いすることになりました。皆様のご理解をお願い申し上げます。なお18年度の発行回数は10回を予定しております。また、勝手ながら年度途中でのお申し込みにつきましても、4月号からの1年分とさせていただきます。

### 平成18年度 1,200円(1年分)

同封の郵便振替用紙(振込手数料JCF負担)で、お近くの郵便局よりお申し込みください。各加盟団体(都道府県車連)事務局や一部自転車関連施設にもこれまで通り送付いたしますので、ご来訪できる方はご利用ください。また、これまで通り、JCFホームページにも掲載いたしますのでご覧ください。< <http://www.jcf.or.jp> > なお、JCF維持会員(個人1万円・法人5万円/年間)の皆様へは無料でお送りいたします。

### 2006年 JCF競技規則集 完成!

(財)日本自転車競技連盟2006年度版の競技規則集が発行されました。ご購入希望のお問い合わせは、各加盟団体へお問い合わせください。

### 国際自転車競技連合(UCI)会長 パット・マッカイド氏 表敬訪問

国際自転車競技連合(UCI)会長のパット・マッカイド氏が来日し、3月14日東京を訪れた。財団法人日本自転車競技連盟では都内文京区において歓迎パーティを開催し、親交を深めた。



JCF岩橋会長(左)とマッカイド氏

### 平成17年度名誉審判員の承認

平成17年度名誉審判員について、下記の方が平成17年度第4回理事会で承認されました。

川崎 寿男(実業団)

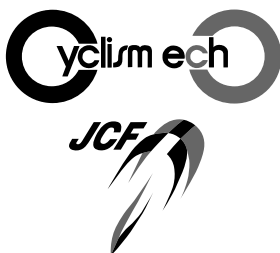
### 平成17年度第1級公認審判員の承認

平成17年度トラック・ロード第1級公認審判員講習会を実施し、下記の方が平成17年度第4回理事会で承認されました。

松本 里香(東京)  
喜多 弘子(大阪)  
中村 恭治(大阪)  
児玉 隆雄(実業団)  
佐久間信司郎(JPCA)

## 連盟の動き(2月下旬~3月中旬)

2月21日	第2回広報委員会・広報部会合同会議	於：東京・自転車会館
27日	トラック・ワールドカップ第4戦日本代表選手団出発	於：オーストラリア・シドニー(帰国 3/6日)
3月2日	第4回総務委員会	於：東京・自転車会館
3日	ツール・ド・台湾2006日本代表選手団出発	於：チャイニーズ・タイペイ(帰国 12日)
6日	女子ロード海外遠征日本代表選手団帰国	於：オーストラリア・ニュージーランド
9日	第9回常務理事会・選手強化本部会	於：東京・自転車会館
11日	第1回シクロクロス小委員会	於：東京・自転車会館
14日	第6回強化委員会	於：東京・自転車会館
17日	第4回理事会	於：東京・自転車会館
21日	世界大学自転車競技選手権日本代表選手団出発	於：ベルギー・アントワープ(帰国 25日)



シクリスムエコー No.127 2006年3月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩橋昭一

編集人/加藤 昭

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508

URL <http://www.jcf.or.jp/>

JCF協賛スポンサー

